

大弊害あるを云ふなり苟くも生命を重んずる者は此の如き醫師にあらざる者に病氣の治療を請ふ者あらざる可きも世には迷信者も少からざるを以て茲に之を一言し世人の注意を促すのみ

○看病人の心得

諺に一に看病二に藥劑と云へるとあり病氣の時に於ては看病の事殊に重要なを證せる者ならずや前條已に看病上注意すべき諸項を概略論述したれば茲には主として革籙道人著の病家須知に記せる一節中、看病人の心得可き言語及舉動の注意あり甚有益なるを覺えられたれば左に抄出し參考に供す看病を爲す者之を服膺せば尙幾くは大過なきを得ん
總て病者は、寢室と、衣食と、飲食の消息、及看侍者の用意に隨て、病の進退に大に關係あることなれば、決して忽諸にすべきことにあらず、然るを此患貧賤者にのみ多く富貴の家には少くことかと思はば、さにあらず、富貴の家の臣妾は、他の毀譽を懼身の後思を慮て假令知非ことありても誰發言ものもなく、人まへののみ珍敬ぞと傳語て、炎燠にも褥隔屏風たてつらね、衣食いやがうへに被せいらせ、絶て更衣の議に及はず、唯一切諺に謂よらずはらすの看侍を、當務なりと裁量て、藥の煎は笑婢に委、患状態は飲咳前後洩の記子ばかり、毎事面従のみに巽辭し、誰己ばかりして、たゞ速更直て暇逸せんと思が故に、わが上日に何事も無らんことを希の外他故なし、今の世の縉紳貴族の病者の接ひ多はかくのごとし、富商大賈もまた此に類ものあり、故に富貴の家の病人は卑賤にも劣て、いつも輕は重をもさは漸進て險證なれば必死ぬること、思は此弊習あるに由ばなりけり、また看病人の用意へ

きは、もし病者氣鬱せは何にても其意に適話をして、病のことはなるべきたけ發語す、強て心の纏結ぬやうに、或は演劇遊興のこと、世間の打諢、事に當ては剛毅激烈の談柄なき尤佳、其間には聖賢の困厄に處し道理などを述て、病者に天を怨、人を尤の感なからしめ、他人なりとも款篤に善愛看護すべきことなり夫人の腔子は病の器なれば、自己もいつしか何なる疾苦を得て人の抱撫うけんこと預慮がたし因て懇親はさらにもいはず、朋友同僚なりとも平生の交誼を重し、病あるときにはなるべきたけ意を致べし己か厥役なりとも病のときには分憂て毫輕視にせず汚穢をも厭ずば、これに勝たる陰徳やあるべき、釋氏が看病は八福田の第一也と説たるも、その慈心が直に天地生成の道に合は、福報を得べし理あればなり殊病者は其夜に從、或は寒熱往來もあれば、毎時病者に問、肌膚を按手脚を捜寒、温を知、痛、癢を察、衣食の厚薄を審、口舌の乾燥を候、湯水も適中に與、痛痒のある處は摩り捫も撥りして、意に應やうにすべし又長病人は、手足の重たるも垂たるも勝にくがれば、それらまでも意を加、炎燠には鬱蒸せぬやうに、寒夜は風の侵ぬやうに、紙格襪隔の開闔までも、さらに疎脱はあるべからず、最意を注べきは飲食の分量と二便の通閉なり、一ツには喫たる物と便下との多寡を校量、二ツには長病に至て小便の通利少は尤可からぬことと心得、三ツには、いかに食氣なくとも、數日大便の閉は腹氣の不下降故あると思、四ツには大便の色相、臭氣の區別、五ツには、小便の晝夜の多少、色濁といふ中にも、黄なるあり赤あり、媒色なる白濁と、近あると脂を交やうなるあり臭氣も各異あれば、唯度數ばかり記得ては證なきことなり醫師もまたかゝること纖悉問聽ぬは輕脱なり、如慈意を用が看病人の當務なれば、餘事に心の分ぬやうにすべし、病者の傍にありて、

倦なりとて書籍など讀へからず、況矣其などの類は嚴禁すへし、就中父母の病あるときは君家の務は是非なし其他一切家道の事なりとも緊要ならずば、其人に委て顧問へからず、然も父母病床に在なから家道の事を挂念にせば、然べきことはほごよくはからひて、其心を安からしむべし、いかに危篤の病なりとも父母の心に合ぬは、志を養道に背て不孝也、また父母病ありとも、其病の間あるをりくは、親族の中父母の悦ものを撰て己に代しめ、當時なりとも寢息て精神を鎮、事あるときに委頓ぬやうにすべし、まして奴婢を病者あるときには、ことさらに勞て疲ぬやうに使令べし、小過ありとも必罵言ことなかれ、たゞ制べきは男女の別なり、姦通より病者の爲善からぬことを牽連ことあれば、其法令を漫べからず唯、愛と金銀を以て服使べし、且病者の爲には其費用を厭べからず、常の時苦も如此時の爲なりと力の及たけは心を盡べきことなり、又病者の寢室近く、高聲せしむべからず、妄に笑語すべからず、他人の病苦死葬のこと、無聊なる談を爲べからず、また無用の人と、病者の意に合ぬ人は、近しむべからず、若危篤にて醫士も擱手、吾人も治すべからざる病と知らば、毎事病者の意に委、服にくき薬など強用へからず、患人の覺悟に従ては絶て薬を止るも可、然を毀譽を懼無益の醫を招き、病者は診察を厭をも願ざるは何とぞ、もし病者覺悟あしくば、死ぬるまでは醫も迎へし、薬も用べし、又覺悟よろしからぬ人は、家人の離別を傷み、本心を失もの多、かゝる人に見は必死ぬべきことなど告は惡し、これら尤用意あるべきことなり、其死期近にありとみば、幼兒孫及病者の心にかゝる血親は、なるべきたけ會はしめざるがよし、苦痛の間も、愛着の情發は、死期の妨となればなり、臥室は、かにも潔淨にして寂寞なるを良とす、近隣に琴三絃笛鼓などの音せば、親と

人して其家に告、且過んことを乞べし、かゝる音聲の耳へ入ば、死ぬべき時は大なる妨害となることあるが故なり、今や瞑目なごするとも、戚屬圍繞て哭泣は可からぬことなり、命絶て後に哭へし、忍がたくて聲を發ものあらば、疾に別室へ遣べし、死期に親戚の啼哭を聞きしむるは、子たるもの大なる不孝なれば、此事は豫より用意て、ゆめく忘失べからず必死ぬべき病者とみば、一切心の繋引ぬやうにすること、看護人の最切緊と記得べし然るときは臨死の苦痛も自ら微、病者に於て大なる益あることなり

○救急函

今此條に不慮の遭難時に臨み必要なる救急函の品目を掲げ参考に供す

- 昇汞綿 凡百三十 一包 (創上に貼用す)
- 昇汞綿 凡百三十 二卷 (創上に綿帶用とす)
- 綿帶 本綿を五裂せし者 二卷 (創傷に綿紗綿帶を附し其上を巻くに用ゆ)
- 脱脂せる綿 四包 (石炭酸水を浸し創部に貼す)
- 三角綿帶布 大一枚 二枚 (重に手足の折れたる者を支持固定するに供す)
- 昇汞綿紗 鯨尺幅に 一枚 (創上に貼附す)
- 薄さ油紙 二枚 (創傷部に綿紗等を置きたる上を被ふに用ゆ)
- 護謨の紐帶 幅凡一 一卷 (主として手足の出血を止るか爲めに巻纏す)

絆創膏幅五寸にて
長さ三尺 一罐 (弱き火に焙り又は水に浸し小切創等に貼す)
 沃度仿謨の細末 三十「グラム」(創傷部に散布するに用ゆ)
 硼酸軟膏 五十「グラム」(布片に延し塗りて重に火傷部又は爛潰部に貼す)
 五十倍の石炭酸水五百「グラム」(創傷部を洗ひ或は救助者の手を洗ふに用ゆ)
 安母尼亞水 三十「グラム」(失神者、溺水者等に興奮劑として喚入せしむ)
 留め針 六本 (絹帯の巻き終りを留むるに用ゆ)
 剪 一個 (諸物を切り或は必要時に洋服等を切るに用ゆ)
 【注意】 以上皆外用品にして一も内用す可き者を藏せず此救急函は常に清潔に取扱ひ濕氣なき場所に貯ふ可し
 又東京市本郷區三丁目醫療器械舖萬木九兵衛方に於ては足立寛先生の考案に成れる救急箱及救急小包を販賣せり

増補 應變人命救護法 畢

明治二十年五月十一日版權免許
 同年六月廿一日第一版出版
 同 明治廿七年三月十六日增補改正第二版印刷
 同 年三月十九日增補改正第二版發行
 同 明治廿九年十一月十日增補改正第三版印刷
 同 年同月十三日增補改正第三版發行
 同 明治卅四年一月十一日增補改正第四版印刷
 同 年一月十五日增補改正第四版發行

正價六十五錢

著作
 權有

發行人 兼 譯者 飯高芳康
 東京市芝區高輪北町三十番地

印刷者 仁科衛
 東京市日本橋區藥研堀町三十三番地

發兌元 朝香屋書店
 東京市神田區鍛冶町二十二番地

本書ノ體裁ハ以上ノ如シ故ニ醫家實地治療上ノ便ト醫學諸氏ノ學習備忘上ノ益トヲ計レル書ニ本
版ハ大ニ増補ヲ加ヘタルカ爲メニ紙數ハ壹千三百餘頁(前版ヨリモ四百餘頁ノ增加)挿圖二百餘個(前
版ヨリモ一百個ノ增加)ヲ算スルニ至レリ以テ本版ニ於テ本書カ如何ニ増補セラレタルヤヲ知ルニ足
ラン希クハ前版ニ倍シ益々愛讀アラコトヲ

最新 第十三版發行

青木純造 改正 纂譯

新藥纂論

全壹冊本綴美本◎全紙數八百數十頁◎
正價壹圓五拾錢◎郵稅十八錢◎前版ヨ
リ紙數增加二百頁餘◎精圖入全一冊

本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ
本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ
本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ

本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ
本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ
本邦諸家ノ臨牀實驗說ヲ

最新 第五版 必携小內科書

飯高芳康 青木純造 纂譯

醫家綱鑑

本綴美本紙數九百四十餘頁◎全壹冊
◎正價壹圓四拾錢◎郵稅拾六錢◎石
版着色圖六葉入◎精圖百三十六個入

本書第五版ハ客年六月發行ノ第四版ヲ増補改正セシ者ニシテ大ニ前版ノ面目ヲ一新シ
內科學ノ類例ナキ新書ナルヲ以テ初版以來大ニ好評ヲ博スルニ至レリ第一篇ノ臨牀
鑑別ノ點テハ內科學ノ原因、症候、經過、豫後、類症、療法、處方、検査、剖檢、要項及諸般ノ療法ヲ集
呼吸、血行、消化器、泌尿器、結核菌、検査法、妊娠検査法、視力検査法、氣管切開術、耳鏡検査法、藥量法、
防癘法、創傷縫合法、動脈結紮法、カテーテル法、送込法、近時眼病、氣管切開術、耳鏡検査法、藥量法、
臟腑病、生理圖說、人工呼吸法、眼科藥液等ノ外、本版ニハ近時眼病、氣管切開術、耳鏡検査法、藥量法、
本書ノ體裁上ノ如キヲ以テ實地治療上ノ必要至便ノ際諸書ヲ併用ノ勞ヲ省キ醫學生ハ復習時其記憶ヲ導
クベキ我邦數刊ノ醫籍中未ダ曾テ有ザル必要至便ノ際諸書ヲ併用ノ勞ヲ省キ醫學生ハ復習時其記憶ヲ導
カ故此書紙數一個ノ過半ヲ占ムル小內科書其便益ヲ感シ亦卷ヲ放ツ能ハザラシム故ニ初版以來益々醫
家並ニ醫學生諸賢ノ好評ヲ博スル亦宜ナラスヤ希クハ愈々愛讀ノ榮ヲ賜ヘ

故 廣瀨桂次郎先生 原譯
原田八十八先生 補譯

改訂 愛氏內科全書 全十五冊

菊判用紙船來最上質◎印刷頗鮮明◎一頁十五行四十三
字詰◎精巧木圖六百六十五箇挿入◎總紙數凡四千六百
頁各冊正價金七拾錢

農科大學教授醫學士野島仙之介先生講述
農科大學獸醫學科卒業生宇野家治先生筆記

家畜內科學

全三冊
美本第一卷正價金六拾
五錢郵稅八錢
第二卷正價金八拾五
錢郵稅拾錢
第三卷發行
錢郵稅拾錢

今や畜産ノ事業大ニ勃興シ獸醫學ノ必要愈々切也此類ニ當リ未だ
醫テ完全ナル家畜內科學ノ著アルヲ聞カサルハ遺憾事ナリ本大
學ニ於テハ野島教授ノ草創ニ基キ爾來ニ醫學ヲ進歩シテ其學ヲ大
ニ進歩セシメタルヲ見ル可キニ本學科ニ於テハ野島氏ノ遺著ヲ大ニ
於テ講述セラルルヲ以テ家畜內科學ノ字野島氏カ在學中ニ於テ大ニ
效テ講述ナルヲ訂正シテ成リタルモニ今全編ニ於テ野島氏ノ遺著
類ニ大ニ別シ更ニ之ヲ傳染病、血液病、並消化器、呼吸器、泌尿器
候器、神經系、運動器、疾病及皮膚病等ニ分類シテ各病ノ原因、病
候、鑑別法、療法ヲ詳論ス其新説ハ新著ニ準ジテ行ハレ流麗簡潔
ナリ其ニ新學ノ缺乏ヲ醫スヘキ新著ト謂フヘシ今第一卷成ル
獸醫學產家諸君愛讀アラントナ

獨逸ヒルロ、ロルシニフェルド氏著 廣瀬桂次郎氏譯

備氏病理總論

全三冊
第七寸一分
用紙上質印刷
鮮明上綱摘要
總紙
數八百頁

●各冊正價金六拾錢宛●全一部正價金壹圓八拾錢
●郵稅拾八錢

本書ハ獨逸萊佛大學病理及病理解剖學正教授ヒルロ、ロルシニフェ
ルド氏新著千八百九十二年出版ノ病理解論ヲ全譯セシモノニシテ
同氏カ歐洲ニ於テ卓然一大家ナリ其學ノ深遠其識ノ該博現今世
人ノ信奉スル所ナルハ更ニ剩舌ヲ須ホス本書ノ如キ亦同氏才學ノ
咳唾ニ出テ學生ニハ病理學ノ心髓方針ヲ開發シ醫士ニハ難症病理
ノ新知識ヲ與ルル目的トシ初メニ病理學ノ定義及其原因ヲ論シ次

病的變化ニ及ヒ然ル後疾病發生論ヲ説述シ其說ク所妄ニ洪汎ノ
載籍ヨリ輯集セルニアラスシテ大抵氏カ實驗學説ニ出テ一モ新
ノ學説ニ基カサルハナク特ニ細菌論、炎性論ノ如キ醫者ナシテ一讀
卷ヲ備ケ能ハサラム實ニ方今汗充ノ書箱中卓然若機關ヲ出セル
病理書ナリ江湖諸彦幸ニ陸續御愛讀アレ

增補正第二版

增訂耳科概要

全一冊
插圖新加四十五個
英紙質凡三百五十
體裁精粹印刷鮮明
完備精圖六十五
六錢
實價金五十五錢郵稅

第二版

ハ有名ナル耳科專門家中ノ泰斗ボリツエル氏新
著ニ由リ數多ノ緊要ナル條章ヲ增補改訂シ新ニ耳鏡的變態圖數十
個ヲ加ヘ大ニ新版ノ面目ヲ一新セリ抑モ耳ノ學タルヤ我邦ノ醫家
中近時眼科ニ比スレハ大ニ輕忽ニ看過スルノ觀ナキ能ハニ何ソ圖
ヲ耳ハ腦髓ニ近接セルカ故ニ好テ病勢ノ侵襲ヲ被リ加フルニ其
病勢ハ劇速ナラシメテ却テ隨後發覺ナル者多ク且深ク骨質中ニ
存セルヲ以テ知ラス識ラス輕忽ニ流レ易シ其極。病徵發見初メ
テ着意スルノ頃ハ已ニ危篤ニ陥リ亦救治ス可ラサルノ悔アラン是
實ニ世人ノ耳病ヲ等閑ニ附セルノ致ス所ト謂ハサル可ラサルナリ
茲ニ之ヲ諸君シ希クハ醫家ノ篤ク注意アラントナ

增補第二版廣告

獨逸、クレンペレル氏著 飯高芳康譯

訂改臨牀診斷學

全壹冊
拾錢●紙數四百五十頁●插
圖六十四個●郵稅拾二錢

本書ハ本年發行第八版「クレンペレル」氏診斷書ヲ譯セル者ニシテ此書ハ獨逸ニ於テ學生ノ講習ト實地
醫家ノ參考トノ適スル小診斷學トシテ大ニ好評アル者ニシテ僅々數年ノ間ニ第八版ヲ重キシテ以テ其
如何ニ價値アルヤヲ推知スベシ實ニ本書ハ實地診斷上緊要ノ事項ハ集録シテ毫モ漏ラス加フルニ數十
ノ插圖ヲ以テ其說明ヲ補ヘリ其目次●診察ノ順序●既往症及現在症●急性傳染病●神經系病●消化器
病(胃病、腸病、腹膜炎、肝臟病)呼吸器病(打診、聽診、略痰檢查)喉頭病●循環器病●泌尿器
腎臟病●新陳代謝機病●血液病●緊要疾病ノ症候ヲ掲ケ以テ其診斷ヲ誘導補助セリ實ニ現時ノ診斷書中
且各診法ノ終ニハ各系統ノ緊要疾病ノ症候ヲ掲ケ以テ其診斷ヲ誘導補助セリ實ニ現時ノ診斷書中
一種ノ新機軸ヲ具ヘ實地治療上醫學生ノ講習上缺ク可ラザル簡潔明瞭ニ一讀此學ノ綱領ヲ得ベキ
緊要ノ書ナリ今日醫學日進ノ風潮ニ乘ジ斬新適切ノ治療ヲ施シ益吾學ノ進步ニ伴ハントスル諸氏ハ請
フ一本ヲ座右ニ備ヘラレントナ

第六版新刊

青木純造纂

斯氏試視力表

從來一二ノ視力試驗表アリト雖正單ニ象形記號或ハA、B等ノ數字ヲ用ヒ未タ嘗テ本邦一般ノ人民開明
ノ度ニ適當スルアルヲ見ス故ニ本邦字及記號、亂視放線狀試驗表ヲ連合編纂シ石版印刷トナシ廣ク同

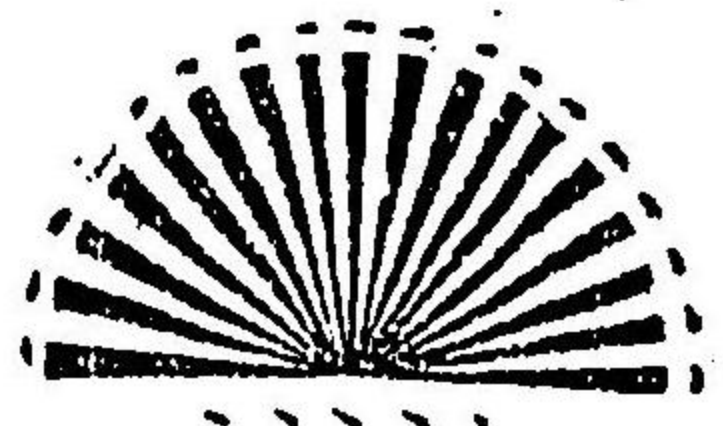
舶來上等厚紙○附錄一冊添○正價
金貳拾錢郵稅貳錢○石版摺鮮明

好諸君ニ頒タントス該表ニハ視力検査法書式

(本 見)

新式視力検査表

は
たや
ろほ
きた
るとち
ぬりさ
てき



亂視検査法及其度ト其性トヲ鑑定スル法、亂視ニ要スル眼鏡ノ種類數十種ノ詳解、並ニ書式新式眼鏡ノ差異及度数改算法等普通眼科書ニ掲載セザルモノヲ附録トシ眼科醫、普通病院開業醫家ハ勿論軍人及學生ノ資格検査ニ必要缺ク可ラザル他ニ比類ナキ良表ナリ諸君請フ御一閱アラシコトヲ見本中ニハ本表ニハ(三番)或ハ(七番)トアルヲ畧記セル者ナリ

增補 改正 第三版 發行

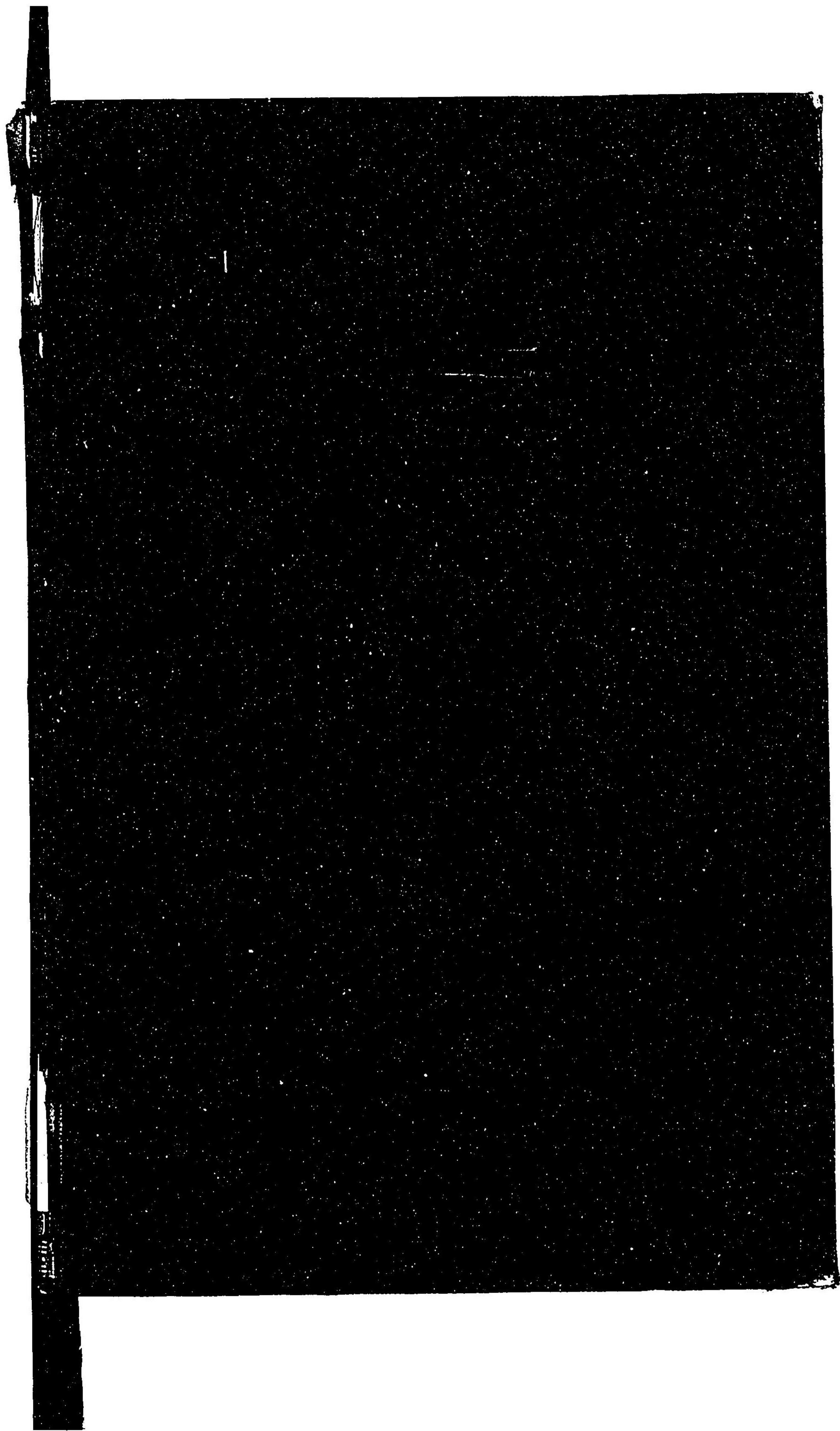
獨逸「ホアース」氏原著 飯高芳康譯述

增補 改正 胃病診療新論

精緻本圖三十三個入 ● 美裝大本 ● 全壹冊紙質堅牢 ● 紙數三百二十餘 頁 ● 正價壹圓 ● 郵稅拾錢

本第三版ハ近時獨逸國ニ於テ喝采ヲ博セル千八百九十七年發行第四版「ホアース」氏胃病診療新論ヲ譯述セル者ニノ近年胃病學ノ益發達開進スルニ從ヒ胃病ノ解剖的診斷法稍其光輝ヲ

74
30



74
30

058513-000-8

74-30

応変人命球護法 (増補改正4版)

エスマルヒ/著

M34

CBC-0031



